

廣福寺だより

21号

仏光寺本廟「光寿堂」が落慶

当寺の仏壇付納骨所もオープン



京都東山の仏光寺本

廟「光寿堂」が昨秋竣

工、十月一日落慶法要

が門信徒二千余名参詣

のうちおごそかに勤ま

りました。光寿堂は時

代の要請に応えたロッ

カー式納骨施設で地上

四階地下二階、最先端

技術を駆使した納骨の

殿堂で総工費十三億二

千万円で建設されまし

た。門徒中の皆さんか

ら御懇志のご協力を頂

き大事業が完成しまし

た。一階には大広間が

聞法道場としての機能

をもち四階には仏師の

手に成るご本尊が安置

され御開山親鸞聖人の御真骨を安置するご廟所にふさわしいお堂と

なりました。遠い遠い昔から仏光寺本廟は、御開山と俱会一処を願

う門末の聖地として全国門信徒の崇敬を集め多くの方々が本廟納骨

をうけつがれて参りました。場所は洛東の風致地区、有名な都ホテ

ルのすぐ手前に位置し閑静なところ、京都駅からタクシーで十分くらいです。

広福寺門徒専用の納骨所は3階H列7番で承認番号191号となっております。左の写真の

ように上部に仏壇が付いており扉を開けると

パツとお明かりがとまります。香炉はセット

すると抹香を焚くことができます。三具足や

お鈴が備えつけられお参りできるようになっ

ています。下部は専用の納骨容器（A）を棚

板で仕切って収納する部分となっております。

納骨料は規定で三万円、寺を通じて納骨届を

光寿堂宛に手続きすることになっていました。

寺を通さずに光寿堂へいかれても受付けてく

れませんのでご注意下さい。なお納骨所の維

持費は毎年寺で負担し納付いたします。

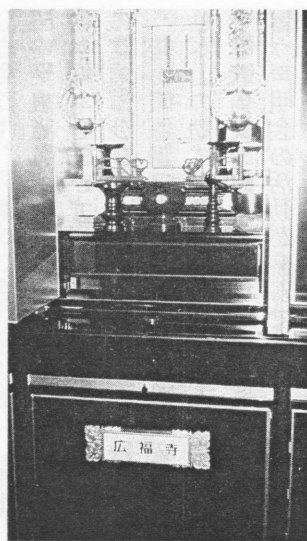
本山参りと京都奈良の旅 平成六年十月二

十五日～二十八日、三泊四日の旅を計画しま

した。希望の方は光寿堂納骨、また本山での

帰敬式（一万円かかります）を申し込んで下

さい。△詳細は別紙チラシ参照▽



光寿堂納骨の意味について

納骨というと脳骨と誤解している方があるようです。お骨堂から分骨して小さなお骨壺を用意しますが、これは後日本山の御廟所に納骨するのに備えてのことです。また分骨するのは遺骨をバラバラにするといって忌み嫌う方がありますが仏教ではどのようにしているのか、その意味について考えてみます。

仏骨八分

お釈迦さまが入滅なさるとクシナーラーの野で荼毘に付された。すると方々の部族が「遺骨の一部を頂き供養塔を建てたい」と申し入れたがクシナーラーの人々は「世尊はわれらの領内で亡くなられた。一部といえども差し上げるわけにゆかぬ」と拒絶し分かれて、分かれたとて言い争った。その時ドーナという賢者が「善き人の遺骨の分配に争いあるは好もしからじ仲よく仏骨を分配しよう。ひろく四方に塔をたてよう」と仲裁に入り平等に分配された。これを「分骨八分」と語り伝える。

俱会一処

阿弥陀經の中に「俱に一処に会う」とある御文で真宗門徒のお墓の正面に刻まれています。信心を獲得した人は浄土に生まれたいと願う。浄土に生まれた者はみな浄土という一処においてあいまみえることができるからである。祖師聖人のみあとを慕い親子・兄弟・夫婦が愛別

離苦の悲しみを超えて浄土に於て同じ縁（えにし）を結びたいと願う思想です。

親鸞聖人行脚像 当寺新墓地にあります。

お台座の下が納骨できる構造になっていますので京都まではとてもというお方は、寺に申し出いただき、分骨のお骨を納骨していただいております。寺で供養いたします。

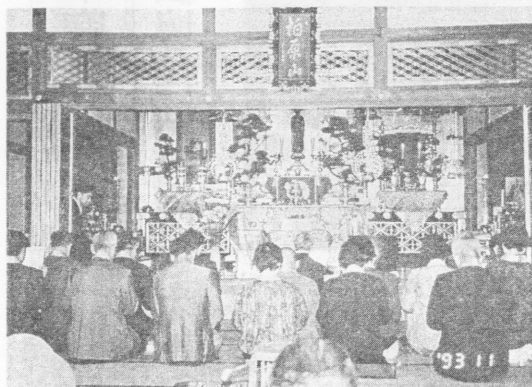
聞法会で報恩講のおつとめ

昨年十一月七日、報恩講のお初夜に聞法会の会員の皆さんから「行譜正信偈・和讃六首引」のおつとめをあげていただきました。外陣の最前列に同朋章をかけた会員の皆さんが威儀を正して整列、日頃練習してこられた成

果を発表されました。うしろの一般の参詣者もお経本を開いて唱和され、梵音がおごそかに堂内にひびきわたりました。

昔の報恩講は十二月の下旬、七昼夜にわたり本山の勤式に準じて盛大につとまり村あげて老若男女の参詣でにぎわいました。お経を習う声明会の活動が盛んで、また助音衆十数人が袴・袴をつけて本堂余間に整列、期間中を通して声明を唱和されるのがならわしとなっておりしました。

七月に記念講演会 聞法会例会200回を記念して本山の門徒推進員研修会特別講師福嶋崇雄師に滋賀県からおいで頂き「本山仏光寺の歴史」についてお話を頂く予定です。

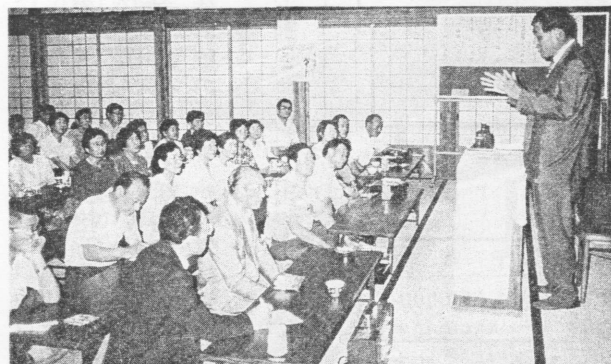


私の履歴書わが経営、わが人生

㈱大谷製作所社長 大谷統司氏

▽聞法会主催講演と座談の会(5・7・20)
聞法会で記念講演をお願いしたところ「生きてきた証として一度は『自分』を語りたい、ぜひ聴いてほしい」と快諾された。講師さんから夕食のご馳走をご用意頂いて食事を共にしてからのおくつろいだ雰囲気での講演は始まった。氏は飾り気もなく来し方をふり返って波乱万丈の人生航路の一コマ一コマを生々しく語られる。満堂の聴衆も思わずうーんと

うなづく。ピカリと光る経営哲学が惜しげもなく熱気を込めて披露される。「農家の米作りでも非常にうまく作る人の真似をして失敗する人の真似をしないようにすればいい」とか「インフレを利用するのが一番いい」など単純明快。体験に裏打ちされた事実の重みがズシリと響く。人生の機微に迫る斬り口は豪快で鋭い。後半は座談と質疑でしめくくられた。あつという間のひとときであった。ご講演・麓が生んだ風雲児の半生の内容はすべてテープおこしで記録しました。閲覧をご希望の方は寺までおいでください。



御寄進

次のような御寄進をいただきました。御懇

念まことにありがたく御礼を申し上げます。

▼庫裡茶の間(十畳) 畳床暖房工一式

燕市 大谷 統司 殿

▼前住職肖像画額縁入り

東京都 小林 淳 殿

▼本堂参詣者用椅子十二脚

当院 柏原 雅史 殿

▼甲州ミカゲ自然石くり抜き井戸側

東京都 篤志者 殿

△お墓参りについて寺からのお願い▽

お菓子、くだもの、お酒などのお供物はお参りがすみましたらお持ち帰り願います。お花の空きビン、空きカンも突風で割れて散乱し危険です。同様に協力をお願いします。

ことしの年忌当たり年

1	忌	平成5年没
3	忌	平成4年没
7	忌	昭和63年没
13	忌	昭和57年没
17	忌	昭和53年没
23	忌	昭和47年没
27	忌	昭和43年没
33	忌	昭和37年没
37	忌	昭和33年没
50	忌	昭和20年没
100	忌	明治28年没
150	忌	弘化2年没
200	忌	寛政7年没

I 平成5年度当寺勤金決算書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
勤 金	2,232,000
雑収入	93,895
繰越金	73,481
計	2,399,376

負担金の内訳

広福寺分 738,050

心光寺分 219,900

ともしび代 21,000

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費		
負 担 金	978,950	本山護持金・前門主香儀
事務通信費	119,514	複写・切手・はがき
会 議 費	76,716	世話方会議・総代会議
教 化 費	227,690	御布教・聞法会補助金
宮繕管理費	455,148	水道管入替・火災共済
門徒交際費	100,861	新築見舞・寄進人謝礼
(小 計)	1,958,879	
事 業 費	400,000	井戸小屋新築工事補助金
繰 越 金	40,497	次年度へ繰越し
計	2,399,376	

II 平成6年度当寺勤金予算書

〔収入の部〕

科 目	予 算 額
勤 金	2,150,000
雑 収 入	30,000
繰 越 金	40,497
計	2,220,497

〔支出の部〕

科 目	予 算 額
寺務経常費	1,600,000
事 業 費	600,000
予 備 費	20,497
計	2,220,497

今年度は負担金で御
本山から伝灯奉告法要
勤修のため賦課金が二
年間にわたりお願いが
あるといわれておりま
す。法要は平成八年に
勤まる予定です。事業
費で井戸小屋新築工事
補助金として六拾万円
が計上されました。補

今年度は負担金で御
本山から伝灯奉告法要
勤修のため賦課金が二
年間にわたりお願いが
あるといわれておりま
す。法要は平成八年に
勤まる予定です。事業
費で井戸小屋新築工事
補助金として六拾万円
が計上されました。補

定例総代会議決議のお知らせ 去る二月六日の総代会議で別表ⅠⅡの決算書、予算書の案がそれぞれ承認されましたのでお知らせ申し上げます。京都の御本山仏光寺と広福寺のおとりもちに寄せられました門徒各位の愛山護法のご懇念まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。昨年度は負担金で前御門主さま御遷化

につきまして門徒中の御香儀として広福寺分式拾万円、心光寺分七万円計式拾七万円を上納いたしました。教化費で例年どおり聞法会活性化のため拾万円の補助金が交付されました。宮繕管理費で25ミリの水道管を本管から引込む入替え工事で式拾四万七千五百円を支出しました。今まで13ミリの水道管のため寺の行事の時にとおきの準備中給水が間に合わ

助金は前年度の積立金四拾万円とあわせ百万円となります。

一戸当たり八千円の勤金

今年も昨年同

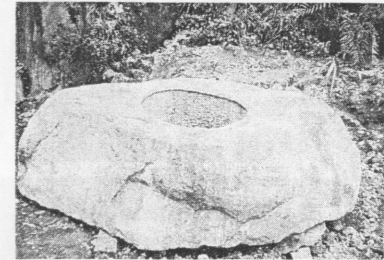
様一戸当たり八千円の勤金を八月までに上納していただくことが申し合わされました。勤金(かんきん)というのは、本山仏光寺と菩提寺広福寺の維持管理運営のため門徒の皆さんから分担して納めていただく護持金のことです。世話方や総代のおられない地区は住職がお願いに参上いたしますので何卒よろしくお願いを申し上げます。

井戸小屋新築へ

境内の井戸小屋が老朽化し改築

が検討されていましたが、このほど寺院の伽藍配置の調和も考慮に入れた設計図もできあがり近く新築へ向け着工の運びとなりました。設計は東京の幸和建築事務所(柏原恵行氏)

に依頼しました。



東京の篤志者からこの井戸小屋に使用する井戸側の寄進がありすでに搬入していただきました。甲州ミカゲの自然石を円く手掘りできくり抜いた美事な井戸側(写真)でありがた

いことであります。